

令和2年度 鶴岡市立図書館協議会 会議概要

○日 時：令和2年10月1日（木）午前10時～11時45分

○会 場：鶴岡市立図書館 本館 講座室

○次 第：

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告・協議
 - (1) 令和元年度図書館事業報告
 - (2) 令和2年度図書館重点施策と主要事業について
 - (3) 第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
 - (4) その他
4. その他
5. 閉 会

○出席委員

樋渡美智子委員、金子洋子委員、笹山一夫委員、井上裕子委員、大久保紀子委員

伊藤 博委員、三浦洋介委員、佐藤みつ委員、安藤幸子委員、鈴木邦委員
小野寺せつ委員、鈴木和子委員

○欠席委員

中村ちか子委員

○市側出席職員

図書館長 松浦幸子、館長補佐 今野 章

社会教育課長 三浦裕美

図書館主査 船岡里佳、図書館主査 松田亜紀子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴の人数：2名

○会議内容

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告・協議
 - (1) 令和元年度図書館事業報告
 - (2) 令和2年度図書館重点施策と主要事業について
 - (3) 第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画について
 - (4) その他

【質疑・意見】

(委 員) 貸出数も伸びている。児童図書をみると、貸出カードを新小学1年生に配ったことも大きかったという事、素晴らしいと思う。分館の貸出冊数も毎年増えているか同程度をキープしている。各分館で頑張っていることを教えて欲しい。

- (事務局) 近年は本の物流に力を入れている。どの館にある本でも貸出返却できる。本所総務課の協力がある。羽黒分館は閲覧座席がゆったりし、休館日も年末年始以外ないので利用しやすいのではないかと。藤島・櫛引分館はもともと利用者が多い。朝日分館も割とゆったりして良い施設である。児童館の子どもたちも利用している。
- (委員) 羽黒分館は、以前とは違い司書がいるようになったので、本の問い合わせにも答えてもらえる。利用しやすくなった。
- (委員) 温海分館。小さくて本棚もぎっしり入っている。保育園やサービスなどへの貸し出しに力を入れている。自分の地区は読書熱があるのではないかと考えている。やまびこだよりも貼っていて情報として良い。
- (委員) 櫛引分館は利用者数が増えている。司書や事務員が来館者に目を向けていて、来る人の顔を見て本を揃えてくれている。頑張っている職員が短期間しか働けないとか研修の機会がないのは問題である。行事が本館に比べたら少ない。頑張る場が少なく分館職員の力量を活かせなくて残念。
- (委員) 藤島分館はとにかくスペースが足りない。絵本の部屋でも畳の上に段ボール箱が置いてあり、歩くのもすれ違うのも大変。将来的にどうにかなるのか。いまは目いっぱいというところだと思う。
- (事務局) 4月の休館時に本の整理をした。藤島分館は書棚の棚を4つほど空けたが直ぐに塞がった。櫛引分館の本も本館で整理をしたり除籍処分にした。朝日分館の書庫整理もした。藤島分館の今後は見通せないが、古い本を収納できる場所を確保できればと思っている。本館の書庫も満杯で、その作業をする場を探している。
- (委員) 羽黒の廃校になった2つの小学校にも多くの本があった。毎年寄贈してくれる人がいて、市の予算で買う本より多かった。学校図書館には司書のいない期間があったが、再配置してからは学校図書館を充実させた。廃校の本はどうするのか。残った中にも良い本がたくさんある。旧羽黒一小には図書館用に建てた建物があり、本棚には日が当たらないようになっている。他の学校の本と比べても、出版年は古くても本の状態は良かった。市の本なので勝手に移動はできないといわれた。
- (委員長) ここでやっている除籍はどのようなものか。
- (事務局) 除籍の内規があって、この年度になったら除籍を検討出来るというようなもの。各分野の担当者と館長・館長補佐等で除籍の可否を決める。除籍をしないと館の維持ができなくなっている状況である。
- (委員) 本館だけでなく分館も一緒に充実していくことが大事。これからは財政面もますます厳しくなるが図書購入費は減っていない。これからどこにお金をかけるのか。魅力のあるまちづくりは、子ども、子育て世代、お年寄り、どの世代にも生きがいや子どもの成長など、本の果たす役割は大きい。第2次子ども読書活動推進計画のあいさつが、教育長から市長に変更になっている。総合計画でも市をあげて頑張ると。人の研修とか本の充実とか価値のあるものにしてほしい。
- (委員) YAコーナーを利用している。以前よりもスペースが広くなり、面出しもしてあり視覚的である。子どもも使いやすいのではないかと。やまびこだよりは以前はお知らせだけだったが、今は資料館の事も載っていて良い。わかりやすい。中高生も2階に上げられる工夫をしてほしい。良さを中高生にも伝えられたらと思った。
- (委員) 休館・行事中止に対する市民の反応は？最近の朝日分館には、朝日

地域居住者以外も多く来ているように見える。分館を回ってもらえる。
(事務局) 本館では9月から、職員のみのおはなし会を再開した。待っている子どもたちもいる。学校の団体見学時のおはなし会では、マスクをしたが伝わりづらかった。次の時はマウスシールドでやったら表情が伝わって楽しんでいた。

(委員) 新聞の保存年限等について。永年保存と一年保存のものがあるが違いは何か。朝日新聞は縮刷版も取っているが、毎日新聞は取っていない。この違いは何か。山形新聞のCD-ROMの利用状況は？デジタルアーカイブに関して、永年保存の分の紙版とダブっているのか？利用状況はどう違うのか。子どもの読書習慣の付け方については？電子書籍を貸す事業に関して市立図書館の展望は？

(事務局) 朝日新聞の縮刷版を買い始めたのがずいぶん前のことなのでその経過はわからない。保存年限の違いは、平成の頃に県内の図書館で分担保存をやっていた時期があり、その頃の分担を継承している。永年保存ではない他の新聞は、地域版、山形版や庄内版はずっと保存している。その他の記事の部分は廃棄しているが、庄内地区に関する記事はすべての新聞のものを保存している。山形新聞のCD-ROM版には検索機能がついていて、記事の検索ができるのと、記事をプリントしてもきれいなので、紙版と合わせて購入している。山形新聞に関しては明治9年から昭和30年までのもののデジタル版がある。年代の古いものは紙でなくデジタル版でお見せしていて、利用は週に何回かある。基本的には紙版で見ている人が多い。

子ども読書活動推進計画策定委員会でも、中学生は忙しく読書が難しいという意見であったが、学校では朝読書の時間を設けるなど頑張っている。YAコーナーは各分館にもあり、コーナー展示も手段の一つではあるが、中学生が公共図書館に来ることが難しい状態である。電子図書は、専用の機器と共に貸している所もある。将来のために業者から話を聞いているところ。今は自分のスマートフォンで見えることもできる。貸出期間が過ぎたら自動返却で、そのデータが消える若しくは見えなくなる。図書館のシステム自体を変更しなければならない。電子書籍になっていない本もあるが、新刊の電子書籍もあるということなので、将来的に電子書籍のことを考えないで図書館運営をしていくことはないだろうという考えである。

(委員) 新聞の保存は、電子版と紙版と両方ともやっているのか。

(事務局) アーカイブ(電子化)しているのは庄内日報だけ。CD-ROMを買っているのは山形新聞。

(委員) アーカイブスの一覧はあるか。アーカイブスを作ったものについても新聞そのものは取っているのか。

(事務局) 紙の新聞は旧小堅小にある。状態が良くないので、紙は見せていない。

(委員) アーカイブスの資料を見せている？

(事務局) 電子で見せている。

(委員) 人口が減っている割には貸出は減っていない。鶴岡市民も頑張っている。図書館内では以前のように新聞だけを読んでいる人はいないようだが、行楽に行けない間は本を読もうという市民の力というか、そういうものを感じる。図書館の果たしてきた役割が、コロナ禍という状況の中でも崩れなくて残っている。

(委員) 学童保育、放課後子ども教室等児童が増えている。家での読み聞かせは大変だと思う。ボランティアや学校などで読み聞かせを活発にし

ているが、本当は親が読んであげるのがいちばん。子どもにとって読書はとても大切なので、室内のイベント開催時に読み聞かせのコーナーを設けるなど考えた方が良かったと思った。

(委員) おはなしボランティアの事業は現在中止していて、代わるものを考えている。福袋のようにして借りてもらうとか、できることをやる。ZoomとかYoutubeとかいろいろ考えるが、私たちは直に会える子に生の声を届けることしかできない。

(委員) 鶴岡は子どもを大事にするんだと、みんなの声を聞きながら思った。子ども読書活動推進計画も0歳児から本に親しむ環境を作ってあげようという気持ちがにじみ出ている。中高生から図書館に来てもらうための手段も何年も話し合いをしてきたが、YAコーナーのような場で、人は見せられて惹きつけられる部分大きいということを感じた。小学生向け講座も良い企画だ。子どもたちに、あるいは大人の方たちに本を広めようという努力が見えてきた。

(委員) 江戸川から鶴岡に疎開した人たちの資料が図書館にたくさんあるので、そのお子さんたちを図書館に連れてきたことがある。江戸川にもない資料もあり感激していた。何を棄てて何を保存するのが難しい。

4. その他

5. 閉会